

守る会NEWSLETTER

URL:<http://homepage3.nifty.com/save-teiji/>

都立定時制高校を守る会・連絡会連絡会事務局発行

守る会総会が開かれました

7月16日、豊島区民センターにて「定時制を守る会」の総会が行われました。

寺川副代表の司会で進められ、まず事務局の北川さんから、昨年度の入試状況についての説明がありました。続いて事務局の加藤さんからは、活動方針の提起があり、その中で、守る会の郵便口座を開設したことが説明されました（詳しいことは守る会のホームページにあります。ご覧ください）。

都高教からは斉藤定時制部長が出席し、挨拶がありました。

メインのミニ講演として、今まで10年近くに渡って守る会の代表をされてきた森光男氏から、「この10年を振り返って」と題したお話がありました。その中で氏は、「娘は不登校だったが、都立の定時制に入学し、そこで次第に自分の居場所を作っていった。親としても、娘にとってはここしかないんだという気持ちで先生方とも交流を持った。忘れられない。その後統廃合が吹き荒れ、様々な取り組みをしたが、娘の母校も廃校になった。今後とも定時制の良さを都民にアピールしていきたい」と語りました。

また、今年の3月に教員を定年退職した加藤さんからは、38年を振り返っての体験談、とりわけ定時制で学んだことの話がなされました。

最後に、多賀哲弥氏を新代表に選び、散会しました。

**7月26日の要請行動の
まとめが、次のページ以降に
あります。お読みください。**



えっ？この期に及んでまだ無策??

～7月26日都教委への要請行動まとめ

7月26日に、都教委に対する要請行動が行われました。「定時制を守る会」として、都教委に提出した要請書の骨子は以下の通りです。

1. 定時制高校で大量の不合格者を生まないように、中・長期的展望に立った就学計画を早急に策定してください。
2. 定時制高校では特に遠距離・長時間通学は望ましくありません。定時制高校はさまざまな地域に存在することが重要です。したがって定時制の募集枠拡大は、今ある定時制高校の大規模化ではなく、募集停止校の募集再開など学校数を増やす方向で計画してください。
3. 計画の策定に当たっては、
 - ① 学級定員増や学級増減基準の改悪など生徒に新たな負担を強いたり、教育条件を悪化させるようなことをしないでください。
 - ② 「追加募集」のときのように学校現場の実情を無視した一方的なやり方を繰り返さず、生徒・保護者・教職員の声を十分に聴いて反映させてください。

「要請書」のそれぞれの項目に関して、担当課長より以下のような回答がありました。

1について・・・二次募集に応募した生徒の多くは、本来は全日制を希望していた生徒である。昨年度も、全日制に関して160人の上乗せをした。全日制の受け入れを増やしていく方向で考えている。細かい受け入れ数は、公私協での協議を経て決定する。

2について・・・1で述べたように、全日制枠を増やす方向で考えている。定時制の募集枠拡大は考えていない。

3の①について・・・学級増減基準の変更はしないが弾力的運用をする。

3の②について・・・追加募集に関してはご不便をおかけした。今後こういうことがないように、全日制の受け入れをしっかりとっていく。



これ以降は以下のやり取り。

守:今年も百数十人の不合格者がでた。これは重大な事態である。また、全日制への進学率が90%を切っている。今後に向けて相当の手を打たないとダメだ。また要請書の3

の①についてももう少し詳しく説明を。

都:進学率が90%以下とのことだが、昼間定時制もあるので、一概には言えない。全日制の枠を増やしたいが、公私協の壁がある。多摩地区の倍率が高かったのは承知している。多摩地区の全日制を多く増学級したい。また、3の①についてだが、基準は変えないが運用の仕方を変えるということ。

守:今年の二次募集で不合格になった数は、何人と把握しているか。

都:今、詳しい数字が手元にないが、140人よりは下回っていると思う。

守:ここ数年、二次募集の不合格者が増加の傾向にあり、2009年度は313人もの不合格者を出して社会問題化した。2010年度はたまたま中学卒業生が減り、全で160人の枠を増やした。それでも二次募集で130人ほどの不合格者がでている。来年はまた中卒者が増加し、その後10年以上に渡って高原状態が続く。どうするのか。

都:今は勤労青年が減っており、定時制の役割も昔と違っている。ただ、3桁の不合格者がでることは避けたい。全力でやる。

守:多摩地区はほとんどの定時制で倍率がでた。多摩地区の定をつぶしすぎた。多摩地区で閉課程になった定時制のいくつかを再開できないか。

都:再開はムリだ。定時制を希望する生徒が少なくなっている。ほとんどが全日制希望だ。

守:貧困化などで、定時制を第一希望にする生徒も増えている。また様々に困難を抱えている生徒たちのセーフティ・ネットになっている。どう認識しているのか。

都:定時制の役割の重要性は認識している。

守:来年の定時制の募集枠は？

都:昨年と変わらない。ただ、学校によって三次募集でも埋まらないところや、逆にあふれているところなど、実態が違う。学校に打診しながら対応を考える。

守：2009年度の「追加募集」の時、該当校になった学校のある在校生は、「どうせ教育委員会は定時のことなんか考えていないんだ」と言い放った。生徒の心に傷を残した。絶対繰り返して欲しくない。

以上がやり取りですが、都教委の回答は全く不誠実なものです。彼らの主張は、

- ① 今や勤労青少年が減っており、定時制の役割も低下している。
- ② だから、定時制の二次募集を受けに来ている生徒は、本来は全日制希望だ。
- ③ だから、全日制の枠を増やしていく（全日制を増学級する）。
- ④ しかし、たくさん取りたくても公私協という壁があるので、そこで論議を詰めていく。
- ⑤ 多摩地区の定時制が満杯になっているのはわかっているので、多摩地区の全日制を多めに増学級する。
- ⑥ 定があふれているとは言っても、三次でも埋まらないところもある。（全都的には充足している。）よって、あふれているところと充足していないところをなるべく均一化する（学級増減基準を変えないが、運用で弾力化する）。

以上のようなものです。定時制の役割についての都教委の認識は、10年前と変わっていません。さらに、今でも「三次募集でも埋まらないところがある」と言って、「全都では充足」論を捨てていません。口を開けば「全日制を増学級すれば解決する」という単純理論です。しかし、そのやり方は破綻しています。すでに3年連続で、二次募集での不合格者が三桁規模で出ているのです。この期に及んでも、「全力で努力する」と言うだけで、募集枠拡大などの策を示さない都教委。自己の責任をどう感じているのでしょうか。

また、「学級増減基準の変更はしないが弾力的運用をする」と都教委は述べています。あふれているところはクラス数が増え、集まらないところはクラス減になる可能性もありえます。

秋の就学計画発表に向けて、都教委の動きを注視し、不合格者を出さない取り組みを強めていきましょう。